

事務事業及び予算の執行実績
「令和6年度、一部令和7年度分を含む」

静岡県立新居高等学校

目 次

事 務 事 業 の 概 要	
事 務 執 行 の 根 拠 法 令 調	
学 校 施 設 の 概 要	
在 籍 生 徒 調	
入 学 志 願 者 及 び 入 学 者 数 調	
卒 業 生 の 動 向 調	
生 徒 の 状 況	
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	
預 金 調	
郵 券 等 受 払 調	
委 託 料 等 歳 出 予 算 執 行 状 況 節 別 集 計 表	
委 託 料 等 歳 出 予 算 執 行 状 況 節 別 集 計 表	
委 託 料 に 関 する 調	
補 助 金 支 出 調	
負 担 金 支 出 調	
建 築 工 事 調	
公 有 財 産 調	
借 地 借 家 等 調	
行 政 財 産 貸 付 ・ 使 用 許 可 調	
普 通 財 産 ・ 借 受 財 産 等 貸 付 調	
主 要 備 品 調	
職 員 調	
職 員 の 年 齢 調	
健 康 管 理	

事務事業の概要

1 概況

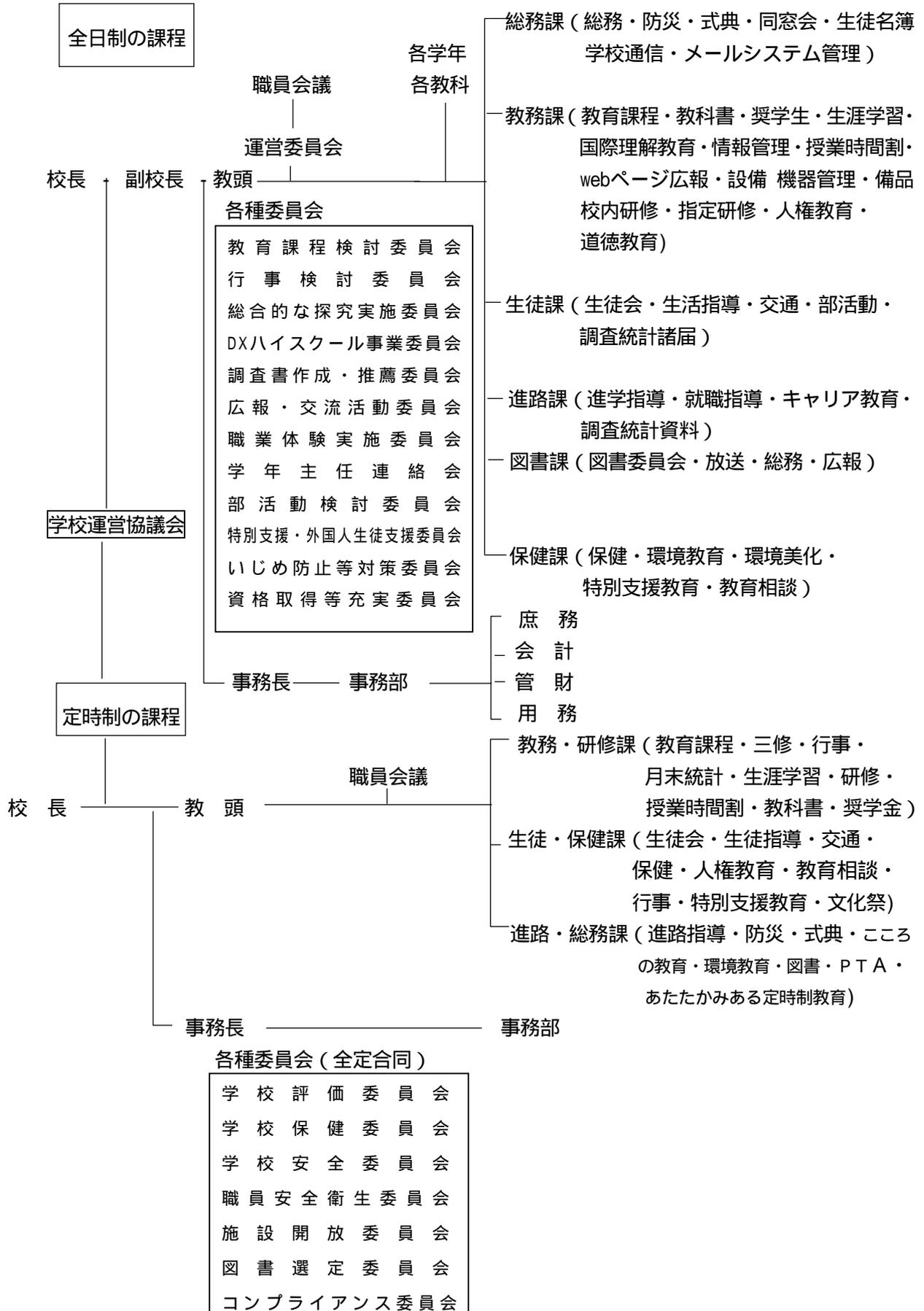
(1) 学校の沿革

- | | | | | |
|----|------|------|----|---|
| 昭和 | 3 . | 2 . | 18 | 新居町立として設置を認可され、静岡県浜名郡新居尋常高等小学校に併設、静岡県新居実科高等女学校と称する。2年制、定員100人(入学定員1学級50人) |
| | 3 . | 4 . | 5 | 開校 |
| | 17 . | 1 . | 7 | 定員200人(入学定員2学級100人) |
| | 18 . | 5 . | 1 | 静岡県新居高等女学校と改称 |
| | 23 . | 4 . | 1 | 学制改革により、静岡県新居高等学校と改称、3年制、定員300人(入学定員2学級100人) |
| | 23 . | 10 . | 1 | 夜間定時制の課程を設置、4年制定員160人(入学定員1学級40人) |
| | 23 . | 12 . | 10 | 新居町内山字柏原2036番地の現在地に校舎を新築し移転 |
| | 24 . | 6 . | 1 | 県立に移管され、静岡県立新居高等学校と改称 |
| | 26 . | 10 . | 8 | 校歌制定 |
| | 30 . | 1 . | 1 | 全日制の課程に家庭科を設置、定員は普通科、家庭科 計300人(入学定員は、合わせて2学級100人) |
| | 34 . | 4 . | 1 | 全日制の課程定員450人(入学定員3学級150人) |
| | 35 . | 4 . | 1 | 35年度入学生から全日制の課程の家庭科を廃止 |
| | 35 . | 7 . | 21 | 図書館竣工 |
| | 37 . | 4 . | 1 | 全日制の課程定員600人(入学定員6学級300人) |
| | 38 . | 4 . | 1 | 全日制の課程入学定員7学級350人 |
| | 39 . | 4 . | 1 | 全日制の課程入学定員8学級400人 |
| | 39 . | 4 . | 10 | 南館第一期工事竣工 |
| | 40 . | 4 . | 1 | 昼間定時制の課程(二部制女子のみ)併設、入学定員2学級80人 |
| | 41 . | 4 . | 1 | 全日制の課程入学定員7学級350人 |
| | 41 . | 5 . | 5 | 昼間定時制の課程用木造校舎2教室新築 |
| | 42 . | 12 . | 19 | 体育館兼講堂竣工 |
| | 43 . | 4 . | 1 | 全日制の課程入学定員7学級336人
夜間定時制の課程入学定員2学級80人 |
| | 43 . | 5 . | 31 | プール(50m×8)竣工 |
| | 44 . | 4 . | 1 | 全日制の課程入学定員7学級329人 |
| | 45 . | 1 . | 28 | 南館第二期工事竣工 |
| | 45 . | 4 . | 1 | 工業コース併設、全日制の課程入学定員7学級322人 |
| | 46 . | 3 . | 12 | 本館第一期工事竣工 |
| | 46 . | 4 . | 1 | 全日制の課程入学定員7学級315人 |
| | 47 . | 2 . | 15 | 本館第二期工事竣工 |
| | 47 . | 12 . | 20 | 本館第三期工事竣工 |
| | 53 . | 3 . | 30 | 柔剣道場・第二体育館・生活館竣工 |
| | 54 . | 4 . | 1 | 54年度入学生から全日制の課程の工業コース廃止
夜間定時制の課程入学定員1学級40人 |
| | 57 . | 4 . | 1 | 全日制の課程入学定員6学級270人 |
| | 58 . | 4 . | 1 | 全日制の課程入学定員7学級315人 |

	59.	3.	31	新居町都市計画による道路拡張工事のため、校門及び西側築堤を改造 第二グラウンド(4,075㎡)竣工
	59.	8.	31	生徒駐輪場竣工
	60.	12.	19	製図室・電気計測室棟竣工
	63.	3.	15	西館竣工
平成	63.	4.	1	全日制の課程入学定員 8 学級360人
	4.	4.	1	全日制の課程入学定員 8 学級340人
	5.	4.	1	全日制の課程入学定員 8 学級332人
	6.	4.	1	全日制の課程入学定員 8 学級328人
	7.	4.	1	全日制の課程入学定員 8 学級324人
	8.	4.	1	全日制の課程入学定員 7 学級280人
	9.	4.	1	全日制の課程入学定員 8 学級320人 昼間定時制の課程自宅通学生入学許可
	12.	4.	1	全日制の課程入学定員 7 学級280人 全日制の課程平成12年度入学生からコース制導入(文理・教養・情報科学 A B・体育健康・福祉)
	13.	4.	1	全日制の課程第二学年コース制開始 昼間定時制の課程入学定員 1 学級40人
	14.	4.	1	昼間定時制の課程二部制を午前固定制男女共学に変更、入学定員 1 学級40人
	16.	4.	1	全日制の課程入学定員 6 学級240人、コース名称変更(情報科学 A を工業コー スに、情報科学 B を情報ビジネスコースに)
	17.	4.	1	コース名称変更(教養コース、体育健康コースを文化教養コースに) 福祉コース履修者に訪問介護員 2 級取得が認可
	18.	4.	1	全日制の課程入学定員 5 学級200人 昼間定時制の課程募集停止
	19.	4.	1	全日制の課程入学定員 6 学級240人
	19.	11.	19	南館耐震工事竣工
	20.	2.	6	体育館耐震工事竣工
	21.	3.	31	昼間定時制の課程閉課
22.	3.	23	市町合併に伴い所在地が湖西市新居町内山字柏原2036番地となる。	
22.	10.	5	部室建築工事竣工	
23.	3.	16	工業実習棟建築工事竣工	
23.	4.	1	全日制の課程入学定員 5 学級200人	
23.	6.	27	多目的体育館他耐震工事竣工	
23.	11.	25	図書館他耐震工事竣工	
24.	3.	16	部室解体、更衣室建築工事竣工	
24.	4.	1	全日制の課程入学定員 6 学級240人	
24.	5.	23	津波避難階段建築工事竣工	
26.	4.	1	コース名称変更(文化教養コース教養系を教養コースに、文化教養コース体 育系を体育コースに)	
令和	30.	2.	23	南館・図書館棟長寿命化工事竣工
	2.	4.	1	全日制の課程入学定員 5 学級200人
	4.	4.	1	全日制の課程入学定員 4 学級160人

- 令和 5 . 4 . 1 コース名称変更（体育コースをスポーツコースに）
- 6 . 4 . 1 情報ビジネスコースを廃止
- 7 . 4 . 1 コース名称変更（文理コースを情報文理コースに）

(2) 組織図
校務分掌表



2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

全日制

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>○自らを律しつつ、広い視野を持ち、地域に貢献できる実践力と創造力を育みます。</p> <p>○基礎・基本を身に付け、主体的に判断し、自己の進路目標を達成する能力を育みます。</p> <p>○たくましく生きるための心身と多様な個性を認め、深く感動することができる豊かな人間性を育みます。</p>	<p>○基礎・基本を大切にしながら確かな学力の育成を目指します。</p> <p>○コース等の編成を生かしながら自己目標を達成するための知識・技能の習得を目指します。</p> <p>○保護者や地域等と連携しながら、実践的に地域に貢献できる人材の育成を目指します。</p> <p>○個別学習・協働学習を推進し、課題解決できる実践力と創造力の育成を目指します。</p>	<p>○主体的に学ぶ意欲のある生徒。</p> <p>○あきらめずに挑戦する意欲のある生徒。</p> <p>○特別活動及び部活動の充実を通して豊かな人間性を育みたい生徒。 共に学び合い授業を大切にする生徒。</p>

定時制

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>実社会で必要となる基礎学力を身につけた生徒を育てます。</p> <p>自分と他者の良さを互いに認め、他者と協力しながら主体的に行動できる生徒を育てます。</p> <p>挨拶を大切にし、ルールやマナーを守り、心身ともに健全な生徒を育てます。</p> <p>個性を伸ばし、自らの進路を切り拓いて、地域に貢献できる生徒を育てます。</p>	<p>「学びなおし」を含め、少人数のクラスで丁寧でわかりやすい授業を展開し、基礎学力の定着を目指します。</p> <p>定時制の授業以外に、通信制でも学ぶことで3年間で卒業可能な三修制を取り入れています。</p> <p>学年の枠を越えて行う様々な活動を通して、コミュニケーション能力や社会性を身につけることを大切にします。</p> <p>進学・就職に関する自己実現に必要な能力を身につけるため、地域や外部機関との連携を図り、キャリア教育を推進します。</p>	<p>少人数の集団で基礎から「学びなおし」をしたいと考える生徒。</p> <p>学校生活を大切にしたいという気持ちのある生徒。</p> <p>働くことで家計を助けながら、高校で学び、卒業を目指す生徒。</p> <p>他者の考えや気持ちを尊重し、より良い学校生活を目指し、他者と協力できる生徒。</p>

(2) スクールポリシー具現化の柱

- ア 生命が守られ、安全で安心して生活できる校内環境の整備
- イ 基本的生活習慣の確立と自立した生徒の育成
- ウ 確かな学力の育成
- エ コース制（全日制）及び進路指導の充実
- オ 特別活動及び部活動（全日制）の充実
- カ 保護者や地域等と連携し、開かれた学校づくりの推進
- キ 持続可能な教職員の働き方改善

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

< 全日制の課程 > 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生命が守られ、安全で安心して生活できる校内環境の整備	・命を大切にし、思いやる心を持ち、判断力、行動力のある生徒が育つ。 ・相談を適切に対処していると答える保護者90%以上	・命を大切にし、思いやる心が育ったと答える生徒96.7% ・相談を適切に対処していると答える保護者88%	A	・人権講話、思春期講座、薬学講座を通して命を大切するための、心の教育を実施した。生徒の適切な状況判断や思いやりのある行動がとれるよう引き続き指導していく。
		・「いじめ」を感じる生徒が早期に発見され、適切に対処される。	・「学校生活に関するアンケート」について年3回実施、「いじめ」や「ひやり、はっと」のアンケート継続実施。 ・先生は自分の気持ちや思いを受け止めてくれると答える生徒87.9%	A	・生徒課と学年が連携して、常日頃から生徒の様子を把握することにより、教職員を信頼して話しやすい環境がつけられた。 ・いじめ事案への対応について教職員相互の研修が進んでいる。 ・引き続き、生徒の安全対策やいじめ防止について、教職員の意識統一を図る。
		・施設不備による事故0件	・施設不備による事故0件	A	・2ヶ月点検実施や清掃時の点検を通して危険箇所が未然に補修されている。 ・常に校内の点検に気を配り、特に危険箇所については早急に修繕を行った。

		<ul style="list-style-type: none"> 津波対策を意識した訓練ができる。 防災訓練に真剣に取り組む生徒80%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練に真剣に取り組む生んだ生徒80% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 消防署や自衛隊との連携で消火訓練や津波避難訓練など多岐にわたる防災訓練を実施し、防災意識を高めた。
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の交通事故0件、交通違反0件 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の交通事故4件。交通違反8件 	B	<ul style="list-style-type: none"> 登下校において、危険に対する意識の低いことから、常日頃から注意喚起を行う。交通ルールを順守できる生徒を育成する行事を検討したい。
イ	基本的生活習慣の確立と自立した生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、礼儀、正しい身なりなど、当たり前のことがきちんと身に付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートで挨拶、礼儀が身に付いたと答えた生徒97%、正しい身なりが身に付いたと答えた生徒94.3% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に挨拶運動等に取り組む生徒がいた。 集合や点呼、会場の換気や窓閉めを素早く行えた。
		<ul style="list-style-type: none"> 問題行動が未然に防がれ落ち着いた学習環境が維持される。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生は勉強面や生活面でしっかりと指導してくれると答える生徒94% 生徒の心身の悩みに関する相談について学校は適切に対処していると答える保護者81.5% 生徒が基本的な生活習慣を身につけられるように適切な指導が行われていると答える教員100% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒観察をして生徒の変化を捉えるように心掛けている。相談を受けた場合、丁寧な対応と的確な声掛けに努めた。教員への個別相談をする生徒が頻繁に見られた。
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導への保護者の理解度80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導への保護者の理解度84.8% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 指導の場面では家庭と学校の意見を一致することができた。 1人1人に語り掛ける指導を行なった。
		<ul style="list-style-type: none"> 通級指導を通じて支援の方法を学んだと答える教員90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 通級指導を通して支援の仕方を学べたと答える教員87.5% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の特性に応じた対応を心掛けた結果、対象とした生徒に大きな変容が見られ、落ち着いた生活を送っている。

		・規則正しい生活習慣が身に付く。	・基本的な生活習慣が身に付いたと答える生徒88.9%	B	・遅刻を繰り返す生徒が改善できなかった。
		・ルールについて自ら考える機会を各学期1回設定する。	・交通ルール、公共マナーを守っていると答える生徒98.8%	A	・3年生については、社会マナーや制度についての出張講義を3回実施したこともルールについて考える機会となった。
		積善に取り組めたと答える生徒・教員90%以上	・積善に取り組めたと答える生徒93%、教員87.5%	A	・学年単位での清掃活動を実施した。
		・奉仕活動に全員が参加し奉仕の心が育つ。	・海岸清掃について真剣に取り組んだと答える生徒95.5%、教員96.9%	A	・天候に恵まれ計画通り実施できた。熱中症対策として時期を9月中旬から10月中旬に移動させた。生徒の意欲的な取組がみられた。
ウ	確かな学力の育成	・生徒の実態にあった「新居高の授業」づくりが進む。	・先生は授業でつまづいたときに適切に対処してくれると答える生徒89.4% ・生徒の能力に合ったわかりやすい授業を行っているという教員100%	B	・年2回、授業改善に役立てる機会を目的として、授業力向上週間を設定し、校内の教職員間で研鑽を積んだ。
		・全員が事前学習をしてテストに取り組んでいる。	・定期テスト、課題テスト等には準備をして臨んでいると答える生徒70.5%	B	・学校全体として定期テストに向かう雰囲気づくりに努めた。2週間前を目途にテスト時間割を生徒に通知するなど、意識向上に努めた。各教科においても、課題やテスト勉強の方法に関する指導を適切に行った。また、全体指導だけでなく、生徒の状況に合わせて個別最適な指導が行われた。結果、放課後等に残って学習する生徒も多く見られた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・1、2学年の観点別学習評価について納得していると答える生徒70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2学年の観点別学習評価について納得していると答える生徒90% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組み、成果を残した生徒を適正に評価するための実態に合わせた学習評価に関する研究とさらなる改善が課題となる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら学ぶ意欲が向上した」と答える生徒の割合70%以上 ・「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら学ぶ意欲が向上した」と答える生徒87.6% ・「授業がわかりやすい」と答える生徒87.7% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒BYODについて、利用する教科の増加も見られているが、より広範な使用用途を研究し、授業における利用率の向上が課題となる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者数5%増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・書籍貸し出し冊数が4/1～1/15で593冊であった。これは昨年度比54.4%である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教材や書籍のデジタル化の影響もあるが、来年度に向けて抜本的な対応が必要である。
エ	コース制及び進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学級減による課題や改善点の検討を経て新教育課程が確立する。 ・進路に必要な学力が身に付く。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの教育課程の見直しを行い、令和7年度入学生の教育課程を新たに編成して県教育委員会に届け出た。 ・進路に必要な学力が身に付いたと答える。生徒88.8% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各コースの専門科目の授業が適正に実施された。 ・本校の新しいカリキュラムでは総合的な探究の時間を各学年2時間行うこととなり、地域協働的な魅力的な学びが期待される。また、文系理系コースをまとめ情報文理コースを新設していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者の内定率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望をしている生徒は全員内定を頂くことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路業務のICT化を進めたことにより、学年の先生方と生徒との進路に係る対話の時間を生み出すことができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間により「進路意識が向上した」と答える生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路意識が向上した」と答える生徒89.1%以上 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選を行い、生徒が身に付ける力が分かりやすい行事に力を入れるようにシフトした。 ・インターンシップは、外部の業者との連携方法を見直し無事に大きな問題なく終えることができた。 ・生徒や教員間での情報伝達に改善の余地があった。 ・行事予定や総合的な探究の時間の指導計画などについて、より効果の高いものを目指して洗練させていかなければいけない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関の活用、支援が充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業及び理科で企業による出前授業を実施した。 ・総合的な探究の時間で湖西市との連携が進んだ。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湖西市職業能力開発センターを始め、近隣の団体や民間の団体の支えもあり、業務負担を軽減することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・1つ以上の資格を取得した生徒数5%増 	<p>第37回基礎製図検定（2年生22名合格）、第91回計算技術検定（2年生26名合格）、第55回機械製図検定（3年生14名合格）、第90回計算技術検定（3年生22名合格）、技能検定機械検査3級（3年生3名合格）、実用英語検定（合格者：3級2名、準2級2名、2級2名）、日本漢字能力検定（合格者：2級4名、準2級1名、3級19名）</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路課として積極的に取り組んだことはあまりないので、来年度高校生が取りやすい資格をまとめ、掲示や案内をする仕組みを作りたい。

	特別活動及び部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に委員会活動において生徒の主体的な運営場面が増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動に積極的に参加していると答える生徒86.7% ・委員会活動において生徒の主体的な運営場面が増えると答える教員81.2% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と委員会が有機的に結びつき、行事など多くの場面で生徒が活躍する機会を生み出すことができた。生徒会が、生徒が運営に携わる機会を考えたり、生徒から企画を吸い上げたりしたため、多くの生徒が主体的に取り組むことができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・効果の高いHR活動や学校行事の充実を図ることができたと答える教員80%以上 ・HR活動に意欲的に参加できた生徒80%以上 ・学校行事に意欲的に参加できた生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果の高いHR活動や学校行事の充実を図ることができたと答える教員96.9% ・HR活動に意欲的に参加できた生徒91.5% ・学校行事意欲的に参加できた生徒92.8% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事で育つことをねらいとしたため、HR活動は生徒たちの主体性を育む最も効果的な機会となっている。課題としては、行事による負担感を軽減する中で、教育効果の最大化をはかっていくことにある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に参加したことにより、人間的に成長できたと答える生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に参加したことにより、人間的に成長できたと答える生徒80.7% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校における部活動の縮減、熱中症のリスクや教員の働き方等、部活動を取り巻く環境が激変する中で、部活動の意義をとらえなおす時期に来ている。 ・部活動で成長させたい力を顧問と生徒が共有することの難しさを感じる。
力	保護者や地域等と連携し、開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者による支援金申請90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者による支援金申請100% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へメール配信後、全ての未申請家庭に状況を確認し、個別にオンライン申請の入力を補助した。申請条件を満たす家庭は全て申請できた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・効果的に予算を執行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り校内で修繕を行い、経費を節減した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒へのアンケートにより早目に故障箇所を見付け校内修繕をし、経費を削減した。

		<ul style="list-style-type: none"> ・適正な事務処理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計事務の精度が上がった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・リレー研修以外にも、状況に応じ職員へ事務処理について説明した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校は相談に適切に対応していると答える保護者85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「相談に適切に対処している」と答える保護者88% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・電話対応とC-ラーニングでのテキスト対応の両面を使い分けた。 ・全ての給付金該当家庭に連絡し、申請を促した。 ・家庭連絡を速やかに行いコミュニケーションをとった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子がよくわかると答える保護者70%以上 ・地域にタイムリーに伝わる学校だよりを年8回発行 ・メール配信登録率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のようによくわかると答える保護者88.3% ・学校だよりは8号発行予定(1月末現6号) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの通知をメールで配信した。 ・Cラーニングの稼働が円滑に進む中で、保護者の登録率をあげ、情報の質を高めたり利便性を感じていただきたりするコンテンツを提供していく必要がある。 ・本校保護者や中学生及びその保護者を主な対象として授業を公開している。
キ	持続可能な教職員の働き方改善	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を適切に実施できたと答える教職員80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を適切に実施できたと答える教職員96.9% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の希望をもとに、少人数での研修を5回行った。 教職員の個別最適な研修の在り方を模索した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌、学年より業務の平準化、効率化に関する提案を吸い上げ具現化させる取組2件以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の校門指導を週3回に減らした。 ・同窓会の理事会等の業務を同窓会と分担し、今年度は広報委員会の夜間の会合をやめた。 ・求人票提供や進路の手引、新居高校ハンドブックなど、多くの発行物のデジタル化に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き業務精選を続けていく中で、各分掌や学年がパートナーとして連携する体制づくりを推進していく必要がある。

< 定時制の課程 >

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生命が守られ、安全で安心して生活できる校内環境の整備	交通事故の発生、年間0回	交通事故報告なし	A	日々の該当指導の取り組みや、交通講話等で学んだ知識を身につけ行動することができた。
		「他者を思いやる気持ちが高まった」と答える生徒80%以上	「他者を思いやる気持ちが高まった」と答える生徒77.7%	B	一人一人の意識が向上し、思いやりをもって学校生活を送る場面が多々見られた。ハートフルコンサートや出前ポッチャ教室などの行事を実施し、多文化理解や共生社会に対する意識を高めることができた。
		避難方法を理解している生徒100%	避難方法を理解している生徒88.9%	C	引き続き、母語が日本語でない生徒も避難方法を理解できるよう努める。 外部団体と協力し、生徒が自ら生き延びる術を身に付けることができるようにする。
イ	基本的生活習慣の確立と自立した生徒の育成	生徒の遅刻数、各学期10回以内の生徒75%	全校で76.1%の生徒が目標を達成した。	A	一部の生徒が遅刻常習となっているので、当該生徒の生活習慣や登校状況を把握し、遅刻数を減らす働きかけをしていきたい。
		校内の生活・学習環境の落ち着きの維持	「学校に満足している」と答える生徒は81.6%であった。	A	今後も個々の生徒の特性に応じた指導を継続できるよう。教職員の情報共有・連携を促進する。
ウ	確かな学力の育成	「授業を通して学力が向上した」と答える生徒60%以上	「よくあてはまる」37.0%、「少しあてはまる」51.9%であった	A	さらなる学力の定着を目指すべく、日々の授業での生徒の取り組み方を改善する必要がある。 苦手意識の強い単元、教科では、消極的な姿勢が見られがちである。一人一台端末の活用や苦手意識を軽減させてから授業を行うなど、授業改善に努めたい。

		各教科におけるICTを活用した授業の推進	全ての教科において一人一台端末を活用した授業を実施した。	B	すべての教科において一人一台端末を活用した授業を1回以上実施することができた。 次年度以降、更に活用するよう推進していきたい。
		「各科目や総合、LHRの授業で、自己を表現したり、学習の成果を発表したりする。」	総合の発表会、国語の文集や生活体験文の作成等を通じ、全生徒に発表する機会を設けることができた。	A	自己表現の場として、今後もこの活動を続けていく。自己表現の方法が未熟な生徒がなお多くいるので、引き続き授業内で生徒の言語活動などを充実させていきたい。
エ	進路指導の充実	「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒60%以上	該当する生徒は51.8%であった。	C	地域連携、外部指導員との連携、卒業生体験談等を通じて、生徒が進路意識を高め、自分の生活を振り返り、将来の夢や目標を持てるよう促していきたい。
		進路先が決定した卒業生75%以上	進路先が決定した生徒は100%であった。	A	引き続き、市や商工会とも連携し、よりよい進路選択ができるよう指導したい。
オ	特別活動及び部活動の充実	生徒（会）による積極的な話し合いや生徒の自発的な運営を行う生徒の増加	体育大会、校内文化祭などの行事において生徒会が主体となり、企画運営することができた。生徒会運営に携わる生徒の数が増えた。	A	今年度初実施となった、校内文化祭で成果が形となって表れた。企画運営に携わる生徒に頼りきりにならず、他の生徒が協働的に活動できる場面がみられた。
		集団への帰属感、連帯感の深まり	様々な行事、活動を通じお互いを認め合い、集団への帰属感、連帯感を深めることができた。	A	学年を越えた縦のつながりを大切に活動をしていくことで、新居高校定時制に誇りを持てるような取り組みを続けていきたい。
カ	保護者や地域と連携し、開かれた学校づくりの推進	学校に満足している保護者70%以上 「保護者からの相談等に学	94.1%の保護者が学校の適切な対応を認めている。 入学させて良かったと回答した保護者は	A	保護者の満足度は生徒の満足度に比例する。また、生徒の成長を感じられることが保護者の満足度につながると思う。引き続き生徒たちが、豊かな経験を通

		校が適切に対応している」と答える保護者70%以上	100%であった。		して、社会に出て活躍できる力を身につけられるよう取り組んでいきたい。
		外部講師の講座を年3回以上、実施する	「定時制通信」や「保健だより」から学校の様子がわかると回答した保護者は、88.9%であった。	A	定時制通信のみならず、SNSやCラーニングシステムの有効な活用により、保護者にとって必要な情報を丁寧に発信していきたい。
		地域との連携の促進 警察との連携促進	湖西市の協力のもと、生涯スポーツ体験活動を2回実施。 自動車学校職員による交通安全教室を2回実施。 湖西署生活安全課による2回（生活安全、薬物乱用）の講座及び、交通課と連携し年2回の交通該当指導を実施。	A	外部人材による講話等を通して、地域の課題等を学ぶとともに、体験会等を通じて地域人材との交流ができた。来年度以降も内容を適宜見直し、より良い事業を実施していきたい。
キ	持続可能な教職員の働き方改善	事務処理に要する時間の削減、仕事の平準化、効率化を目指した取り組みへの提案2件以上	職員掲示板やCラーニングを多用し、文書の作成・回覧等の手間を省くようにした。また、今年度よりICT端末を活用した職員会議のペーパーレス化を実施した。	B	今年度ある程度の進捗がみられたが、更なる改善が必要であることから、引き続きICTツール等を活用した、事務作業の精選及び軽減を進めていきたい。
		教職員の仕事に対する充実感や連帯感の高まり	生徒情報等の職員の共有化が図られた。また、業務上周囲の助けが必要な時など、声がかかけやすい雰囲気を作ることができた。	A	生徒と関わるうえで、個人では点であった情報が、職員室での情報共有により線になるのを感じることが多かった。 コミュニケーションを常にとることで、生徒の課題に対する早期発見、早期対応ができています。

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

< 全日制課程 >

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	生命が守られ、安全で安心して生活できる校内環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・心を育てる講話や集団活動の実施 ・生徒の出欠確認の徹底をして課題早期発見対応を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にし、思いやる心を持ち、判断力、行動力のある生徒が育つ。 ・相談を適切に対処していると答える保護者 90%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」や「ひやり、はっと」等、生徒の心の状態を調査するアンケートの継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」を感じる生徒が早期に発見され、適切に対処される。
		<ul style="list-style-type: none"> ・校内施設の定期的点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設不備による事故 0 件
		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の年 2 回の実施と内容の工夫 ・地域防災への参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波対策を意識した訓練ができる。 ・防災訓練に真剣に取り組む生徒 80%を超える。
		<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室の年度当初の実施と交通安全指導の継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の交通事故 0 件、交通違反 0 件
イ	基本的な生活習慣の確立と自立した生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、全校集会の実施 ・保護者、教職員が連携した毅然とした指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、礼儀、正しい身なりなど、当たり前前のがきちんとして身に付く。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的、実践的な取組の奨励 ・生徒のよさに着目した全職員による生徒への声掛け 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動が未然に防がれ落ち着いた学習環境が維持される。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権に配慮し、生徒の特性に応じた指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導への保護者の理解度 80%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援の視点を取り入れた生徒指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導を通じて支援の方法を学んだと答える教員 90%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻生徒の声掛け指導の継続と 5 分前行動の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣が身に付く。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ルールについて考える教育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールについて自ら考える機会を各学期 1 回設定する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学年集会や全校集会で積善の行いを奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積善に取り組めたと答える生徒・教員 90%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ・海岸清掃等の奉仕活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・奉仕活動に全員が参加し奉仕の心が育つ。

ウ	確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外を対象とした授業公開の実施 ・シラバスの継続的な改善と学習の手引きの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態にあった「新居高の授業」づくりが進む。
		<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト前の学習支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が事前学習をしてテストに取り組んでいる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の一体化」のための学習評価の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2学年の観点別学習評価について納得していると答える生徒70%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を活用した授業の充実 ・生徒による授業評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら学ぶ意欲が向上した」と答える生徒の割合70%以上 ・「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合80%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用の活性化
エ	コース制及び進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・コース制の特色を生かした新しい教育の推進と教育課程の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級減による課題や改善点の検討を経て新教育課程が確立する。 ・進路に必要な学力が身に付く。
		<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の進路計画の改定 ・目標を意識した学習記録表の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者の内定率100%
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路行事の工夫と実施 ・インターンシップの実施と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間により「進路意識が向上した」と答える生徒80%以上
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大学や商工会、職業訓練センター等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関の活用、支援が充実する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の奨励 	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒数に対して累計25%以上の資格を取得する。
オ	特別活動及び部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動への自主的、実践的な取組の奨励 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に委員会活動において生徒の主体的な運営場面が増える。
		<ul style="list-style-type: none"> ・HR活動及び学校行事の妥当性の検証と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果の高いHR活動や学校行事の充実を図ることができたと答える教員80%以上 ・HR活動に意欲的に参加できた生徒80%以上 ・学校行事に意欲的に参加できた生徒

			80%以上
		・部活動を通じた健全な生活態度の育成	・部活動に参加したことにより、人間的に成長できたと答える生徒90%以上
カ	保護者や地域等と連携し、開かれた学校づくりの推進	・保護者への申請支援の充実	・保護者による支援金申請 90%以上
		・経営予算の見直し年3回	・効果的に予算を執行する。
		・リレー研修年1回以上	・適正な事務処理を行う。
		・家庭と学校間の緊密な情報交換	・学校は相談に適切に対応していると答える保護者 85%以上
		・公開授業、ホームページ、メール配信等を活用した広報活動	・学校の様子がよくわかると答える保護者 70%以上 ・地域にタイムリーに伝わる学校だよりを年8回発行 ・Cラーニング登録率 100%
キ	持続可能な教職員の働き方改善	・教育課題に対応した校内研修の実施 ・主体的に研修に参加して知見を広め教育活動に生かす。	・研修を適切に実施できたと答える教職員 80%以上
		・各学年や分掌及び教科で業務の削減、効率化に取り組む。	・各分掌、学年より業務の平準化、効率化に関する提案を吸い上げ具現化させる取組2件以上

< 定時制の課程 >

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	生命が守られ、安全で安心して生活できる校内環境の整備	・健康や安全に対する講義や実習の充実	・交通事故の発生、年間0回
		・人権意識を高めるため、人権講座、携帯マナー講座、思春期講座等を実施	・「他者を思いやる気持ちが高まった」と答える生徒80%以上
		・防災に関する、より実践的な訓練や講習の実施	・避難方法を理解している生徒100%

イ	基本的な生活習慣の確立と自立した生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な声掛けや保護者との緊密な連携による、欠席・遅刻・早退を減少させる指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の遅刻数、年間10回以内の生徒80%
		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の課題に応じた指導を教職員の共通認識に基づいて実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の生活・学習環境の落ち着いた維持
ウ	確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の徹底を図る授業の取り組みや課題を充実させる ・一人一台端末を活用した授業の充実 ・総合の発表会、国語の文集や生活体験文の作成等を通じ、全生徒が表現する機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業を通して学力が向上した」と答える生徒80%以上 ・各教科におけるICTを活用した授業の推進 ・「各科目や総合、LHRの授業で、自己を表現したり、学習の成果を発表したりすることができた」と答える生徒60%以上
エ	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育による職業観の育成と就職指導の計画的な実施 ・面談やアンケート、適性検査等を活用し、生徒の希望に沿った職業の紹介を積極的に実施 ・外部人材による進路講話の実施 ・支援員の計画的な配置による個別指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒60%以上 ・進路先が決定した卒業生80%以上
オ	特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動、学校行事の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒（会）による積極的な話し合いや生徒会の自発的な運営を行う生徒の増加
		<ul style="list-style-type: none"> ・学年の枠を越えて行う活動のさらなる推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団への帰属感、連帯感の深まりを感じる生徒が半数以上
カ	保護者・地域と連携し、開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動を円滑にするための持効性のある予算編成と執行 ・保護者からの相談等に対する、迅速で適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に満足している保護者70%以上 ・「保護者からの相談等に学校が適切に対応している」と答える保護者90%以上

		・湖西市の行政・医療機関等から講師を招聘し、講座を実施する	・外部講師の講座を年4回以上、実施する
		・ホームページ、定時制通信、学校メール等を活用した情報発信	・「学校生活の様子がわかる」と答える保護者90%
		・地域人材活用機会の創出 ・警察との情報交換の実施	・地域との連携の促進 ・警察との連携の促進
キ	持続可能な教職員の働き方改善	・印刷・配布する文書を選別し、電子化作業を進める	・事務作業の精選、軽減を図る
		・目標の共有、情報共有を推進し、教職員の協働を図る	・教職員の仕事に対する充実感や連帯感の高まり

4 監査対象期間における特色ある取組

(1) 全日制の課程

年度	取組概要	成果及び課題
R6	<ul style="list-style-type: none"> ・DXハイスクール指定校 ・次世代モノづくり人材育成 ・安心安全な教育の実践 ・業務改善 ・探究活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・トヨタバッテリーやGSユアサ、アフレル等の民間企業と工業・理科の授業にて産学連携 ・熱中症対策や本館避難路の改善、いじめ等現状の学校風土を踏まえた指導体制づくり ・Cラーニングの導入等、ICTの積極的な導入による業務の効率化 ・総合的な探究の時間増設の教育課程づくり
R7	<ul style="list-style-type: none"> ・情報文理コースの新設等コース制の充実 ・魅力ある総合的な探究の時間 ・教育相談支援体制の整備・強化 ・通級指導や外国人生徒支援事業を中心とした個を大切にす教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報指導にも力を入れたコースを新設。情報社会に対応する人材を育成。 ・業者探究プラットフォームの導入や湖西市や地元企業の支援のもと実践的な探究活動を実施。令和8年度入学者選抜より探究活動を裁量枠として設定。 ・学校での教育相談を進めるためのフローを作成し、円滑に実行できる体制を整備。 ・多様な生徒を理解する機会を大切にしながら、各生徒が抱えている課題を浮き彫りにすることができた。

(2) 定時制の課程

年度	取 組 概 要	成 果 及 び 課 題
R 6	<p>【キャリア支援】 生徒の進路意識を高め、進路実現を図るため、外部人材に委嘱し、キャリア支援員を配置している。主に週に1度の総合的な学習の時間の中で、キャリア支援員と職員が連携して、進路情報の提供、個別面談や面接練習等の進路指導を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none">・キャリア支援員が年間を通して継続的に生徒と関わることで、生徒が安心して支援員の指導を受ける様子がみられ、個々の生徒の進路希望や課題等に応じた指導につながっている。・指導の前後に支援員と職員で打合せ・振り返りを行って生徒情報を共有し、連携した効果的な指導が行えるよう努めている。
R 7	<p>【近隣市商工会との連携による進路講座】 浜松市商工会・湖西市商工会との連携により、地元の中小企業に集まってもらい、企業説明を中心とした座談会を開催した。</p> <p>【学年の枠を越えて行う特別活動】 生徒主体のLHRを学年の枠を越えた形で実施している。すべての生徒が必ず1時間を担当し運営側を経験する。 校内文化祭では執行部が中心となり、全生徒参加型の企画を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none">・地元の企業に定時制の生徒を知ってもらう良い機会となっている。また、人材不足に悩む中小企業にとっても良い機会となっている。この行事をきっかけに就労につながったケースも生まれた。・集団への帰属感が増し、学年を越えた交流が増加した。生徒会役員への希望が増加するなど生徒の主体的な取り組みにつながっている。

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

全日制の課程

区分	本務職員						臨時・会計年度任用職員							合計
	副校長	教頭	教諭	事務長	主任	小計	教諭(任)	実習助手(臨)	主事(臨)	外国語指導講師	非常勤講師	部活指導員	小計	
転出者	1	1	4	1	1	8								8
退職者			5			5		1			4		5	10
転入者	1	1	4	1		7								7
新任者			3			3	1	1	1		3		6	9
役職定年														0
差引増減	0	0	2	0	1	3	1	0	1	0	1	0	1	2

定時制の課程

区分	本務職員				臨時・会計年度任用職員			合計
	教頭	教諭	養護教諭	小計	養護教諭(臨)	非常勤講師	小計	
転出者		1	1	2				2
退職者						3	3	3
転入者		1		1				1
新任者						2	2	2
役職定年								
差引増減	0	0	1	1	0	1	1	2

(2) 現員数

全日制の課程

(令和7年9月30日現在)

	本務職員										臨時・会計年度任用職員								合計	
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	実習助手	事務長	主査	技能長	小計	教諭(任)	教諭(臨)	非常勤講師	外国語指導講師	非常勤嘱託員	部活動指導員	S	C		小計
計	1	1	1	25	1	1	1	2	1		34	1	2	11	1	2	2	1	20	54

定時制の課程

	本務職員					臨時・会計年度任用職員				合計
	教頭	教諭	養護教諭	主事	小計	養護教諭(臨)	非常勤講師		小計	
計	1	6	0	1	8	1	5		6	14

(3) 健康管理について

職員の健康管理については、各自が健康に関する意識を十分に自覚し、生活習慣病健診、人間ドック等の定期健康診断を全職員が積極的に受診し、生活習慣病の早期発見、早期治療に努めるとともに、健康管理医のアドバイスを受け、職員安全衛生委員会の活動を通して適切な健康管理を行っている。ストレスチェックについて全職員に受検を呼びかけた。

今年度は毎月の勤務時間外労働について、45時間・80時間以上の職員をリスト化し、実際にどのような点が業務過多かを聞き取りをしている。

(4) 教職員の研修について

ア 全日制の課程

年度	目的	研修内容	成果・課題
R6	「教職員の資質向上」 授業力の向上	・授業力向上週間(6月/11月) 他教員の授業を見学し、助言を受け合った。 ・授業アンケート(7月/1月)を行った。	・他教員の工夫(発問の仕方,教材の扱い方,ICT教育への取り組み方等)を知り、自身の授業に生かすきっかけにできた。
	生徒指導力の向上	・年次別研修対象教員(7名)チーム研修を3回実施した。 ・法律面からみた生徒指導について、ロイヤーを招いての研修(8月)を実施した。	・自身の授業を振り返り、改善点を考えて今後の授業に生かすことができた。 ・生徒指導を法律の視点から考えて理解を深め、今後の指導に生かした。
	学校運営力の向上	・特別支援に係る研修(7月)、教育相談に係る研修(8月)を実施した。	・発達障害や教育相談への理解を深め、適切な指導方法を考えた。
	人権意識の向上	・DXハイスクール指定校として、個々の教員が各地の高校の視察を行った。 ・学校PRの方法について複数回にわたり研修を実施した。 ・全校生徒を対象とし、人権講話(5月)インターネットと人権」をテーマとした講演を実施した。	・他校の取り組みを知り、自校での今後の取り組みを考えるきっかけとなった。 ・インターネットやSNSを使う際の注意点を知り、人権への意識を高めた。

R7	「教職員の資質向上」 授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上週間（6月/11月実施予定）他教員の授業を見学し、助言を受け合った。 ・授業アンケート（7月/1月実施予定）を行った。 ・年次別研修対象教員（9名）チーム研修を2回実施した。 ・ICTの活用方法やその効果についての研修（6月）を実施した。 ・特別支援に係る研修（7月）を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教員の授業を見て、発問の仕方やICTの活用の仕方を学び、自身の授業に生かすきっかけとした。 ・自身の授業を振り返り、改善点を考えて今後の授業に生かすことができた。
	生徒指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用方法やその効果についての研修（6月）を実施した。 ・特別支援に係る研修（7月）を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の授業でのICT活用を促進するきっかけとなった。 ・発達障害や特別支援教育への理解を深め、適切な指導方法を考えた。
	人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒を対象とし、「人権講話（5月）インターネットと人権」をテーマとした講演を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやSNSを使う際の注意点を知り、人権への意識を高めた。

イ 定時制の課程

年度	目的	研修内容	成果・課題
R6	教職員としての資質の向上	学期ごとの成績評価をする前に、各教科担当から評価の方法について報告をし、本校生徒の実態に合わせた学習評価の在り方について検討した。	今後、各校で観点別評価が進んでいく中で、授業実践や成績評価に関して、他校の事例などを参考にしながら、評価規準・方法の改善が必要であると考えます。
	命を守るための防災について学ぶ。	災害発生時の身の守り方や緊急時の避難方法等外部講師による防災教育の実施。	津波浸水域に立地する学校として、日頃からの防災教育の重要性を再認識できた。
	支援員との情報交換を行い生徒の実態把握および共通理解をする。		支援するにあたり、生徒の達成目標をどこに据えるのか、判断が難しい面がある。

R7	<p>教職員としての資質の向上</p> <p>学習指導要領に沿った、観点別評価に基づく成績評価に関する理解を深める。</p> <p>法律に基づいた生徒指導の在り方について理解を深める。</p> <p>特別支援教育の現状と生徒への支援について理解を深める。</p>	<p>各学期、各教科担当から評価の方法について報告をし、本校生徒の実態に合わせた学習評価について検討した。</p> <p>スクールロイヤーを招いた「学校現場の法律相談」事例を基にした研修。</p> <p>特別支援に係る研修（8月）発達障害をもつ生徒への指導についての研修を実施。</p>	<p>授業実践や成績評価に関して、他校の事例などを参考にしながら、評価規準・方法をさらに研究していきたい。</p> <p>日常的な指導の現場で、どのような視点に留意しながら教育活動を行うべきか理解することができた。</p> <p>発達障害を有する子どもたちの特徴的な表れや、対処の方法について理解を深めることができた。</p>
----	---	---	---

6 防災対策について

東日本大震災の教訓を踏まえて、津波対策を大きな視点として防災対策の見直しを行い、学校管理下における地震発生の場合には人命の安全確保が全てに優先するものとし、日ごろから防災計画に従って生徒の指導、教職員の心構え等について周知徹底を図っている。

また、平成18・19年度の県防災教育推進指定校の経験を十分生かし、災害時の被害を最小限に抑えられるよう、防災対策を更に進めるとともに、地域防災訓練には積極的に参加するよう指導している。

(1) 令和6年度校内防災訓練

課 程	実施日	内 容	参加対象者
全 日 制	4月11日	・南館屋上、本館3,4階への避難訓練（緊急地震速報） ・地区別集会（名簿確認） ・防災ワークシート	全生徒 教職員
	9月4日	実動訓練（学年別実施） ・自衛隊による講義と応急処置訓練（1学年） ・シューター避難訓練、消火器訓練（2学年） ・担架運搬訓練、スモークハウス体験訓練（3学年）	全生徒 教職員
定 時 制	4月24日	・避難訓練（地震・津波対応） ・地区別集合訓練	全生徒 教職員
	7月17日	・自衛隊による講義と応急処置訓練およびロープワーク	全生徒 教職員
	9月2日	・避難訓練（火災対応） ・防災段階の確認	全生徒 教職員
	12月11日	・救命救急等講習会（湖西市消防本部） ・心肺蘇生法、AED使用法の実技講習	全生徒 教職員

(2) 令和7年度校内防災訓練

令和7年9月30日現在

課 程	実施日	内 容	参加対象者
全 日 制	4月11日	・本館4階への避難訓練（緊急地震速報） ・地区別集会（名簿確認） ・防災プリント（地震への対応）	全生徒 教職員
	9月1日	実動訓練（学年別実施） ・防災保存食の調理訓練（1学年） ・シューター避難訓練、消火器訓練（2学年） ・担架運搬訓練、スモークハウス体験訓練（3学年）	全生徒 教職員
定 時 制	4月30日	・避難訓練（地震・津波対応） ・地区別集合訓練	全生徒 教職員
	9月1日	・避難訓練（火災対応） ・防災段階の確認	全生徒 教職員

(3) 地域防災訓練

毎年12月に実施される地域防災訓練に生徒が積極的に参加を促し、地域の防災に取り組んでいる。（参加者は令和6年度...117名）

(4) 津波対策

津波対策に関する防災施設の強化として、平成24年5月に3階建校舎に屋外避難階段が設置されている。毎年全校生徒を対象に津波避難訓練を実施している。

また、危機管理時において、自らの命は自らが守り、他者に目を向け自発的に行動できる生徒の育成を目指すため、さまざまな場面を想定した避難訓練の継続と登下校時の安全確保行動の周知徹底を図っている。

7 学校開放について

(1) 施設開放

「静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱」及び「静岡県立新居高等学校の施設等の開放に関する細則」に基づき施設開放を実施している。

ア 利用状況

地域住民のスポーツ活動等の振興のために、体育館や運動場等の施設を積極的に開放している。

(令和7年9月30日現在)

施設名	利用種目	令和6年度		令和7年度		備考
		利用日数	利用者数	利用日数	利用者数	
第一体育館	バレーボール	34日	437人	19日	250人	6年度 利用者負担金 80,787円 7年度 利用者負担金 32,163円 (電気料徴収)
第二体育館	バレーボール	73日	1,028人	36日	590人	
	バドミントン	41日	493人	18日	238人	
テニスコート	テニス	0日	0人	0日	0人	
グラウンド	野球	1日	25人	0日	0人	
武道場	柔道	0日	0人	0日	0人	
プール	水泳	5日	162人	0日	0人	
視聴覚室	会議	1日	13人	0日	0人	
計		155日	2,158人	73日	1,078人	

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法(第11条) 理科教育振興法施行令
2 学校の管理・運営 に関する こと	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県立学校管理規則 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 高等学校等修学支援事業費補助金(奨学のための給付金)交付要綱 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 静岡県手数料徴収条例 静岡県教育委員会職員安全衛生管理規程 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 高等学校定時制の課程及び通信制の課程修学補助金交付要綱 独立行政法人日本スポーツ振興センター法(第16条、第17条) 静岡県情報公開条例施行規則

学校施設の概要

1 面積及び所有区分

(令和7年9月30日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	37,120.81	37,120.81					
内 訳	校舎敷地	15,405.63	15,405.63				
	運動場敷地	21,715.18	21,715.18				
校 舎	建 3,224.29	3,224.29					
	延 8,910.96						
体 育 館	建 1,365.58	1,365.58					
	延 1,552.74						
武 道 場	建 567.00	567.00					体育館 567.00 武道場 567.00
	延 1,134.00						
その他の建物	建 1,779.10	1,515.35			263.75		
	延 2,122.63						
生 活 館	建 321.30				321.30		
	延 876.33						
プ ー ル	930.00	930.00					50m×18.6m 8コース

在籍生徒調

(令和7年9月30日現在)

学年	学科別		全日制普通科				定時制普通科			
	区分		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入学者		160	104	60	164	40	13	11	24
	令7	増加						(1)		(1)
		減少				0		2		2
現在				104	60	164		12	11	23
2年	入学者		160	96	64	160	40	6	5	11
	令6	増加						(1)		(1)
		減少		10	2	12		1	2	3
	2年時当初			86	62	148		6	3	9
	令7	増加						1	(2)	1 (2)
減少			2	2	4		(1)		(1)	
現在			84	60	144		6	5	11	
3年	入学者		160	116	42	158	40	11	9	20
	令5	増加								
		減少		8	3	11		(1)	2	2 (1)
	2年時当初			108	39	147		10	7	17
	令6	増加							1	1
		減少		2	1	3		1	3	4
	3年時当初			106	38	144		9	5	14
令7	増加									
	減少							(2)	(2)	
現在			106	38	144		9	3	12	
4年	入学者						40	5	6	11
	令4	増加								
		減少						2	1	3
	2年時当初						3	5	8	
	令5	増加								
		減少								
	3年時当初						3	5	8	
	令6	増加								
		減少						1	3	4
3修卒										
4年時当初						2	2	4		
令7	増加									
	減少									
現在						2	2	4		
合計				294	158	452		29	21	50

入学志願者及び入学者数調

全日制

区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
生徒定員 (A)		200	160	160	160	160
募集者数 (B)		200	160	160	160	160
志願者数	男	96 (2)	89 (1)	120	99	114
	女	47 (1)	65 (1)	44	65	71
	計(C)	143 (3)	154 (2)	164	164	185
受検者数	男	96 (2)	89 (1)	120	99	113
	女	47 (1)	65 (1)	44	65	71
	計(D)	143 (3)	154 (2)	164	164	184
合格者数	男	94 (1)	88 (1)	118	96	104
	女	46 (0)	65 (1)	42	65	61
	計(E)	140 (1)	153 (2)	160	161	165
志願倍率(C) / (B)		0.72	0.96	1.03	1.03	1.16
受検倍率(D) / (B)		0.72	0.96	1.03	1.03	1.15
入学者数	男	94	89	116	96	104
	女	45	65	42	64	60
	計(F)	139	154	158	160	164
充足率(F) / (A)		0.70	0.96	0.99	1.00	1.03

入学志願者及び入学者数調

定時制

区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
生徒定員 (A)		40	40	40	40	40
募集者数 (B)		40	40	40	40	40
志願者数	男	9 (1)	4 (2)	11 (2)	7	11 (7)
	女	8 (3)	6	9 (1)	6 (1)	10 (4)
	計(C)	17 (4)	10 (2)	20 (3)	13 (1)	21 (11)
受検者数	男	9 (1)	4 (2)	11 (2)	7	10 (7)
	女	8 (3)	6	9 (1)	6 (1)	10 (4)
	計(D)	17 (4)	10 (2)	20 (3)	13 (1)	20 (11)
合格者数	男	7 (1)	4 (1)	10 (1)	7	10 (3)
	女	7 (3)	6	8 (1)	4 (1)	9 (2)
	計(E)	14 (4)	10 (1)	18 (2)	11 (1)	19 (5)
志願倍率(C)/(B)		0.43	0.25	0.50	0.33	0.53
受検倍率(D)/(B)		0.43	0.25	0.50	0.33	0.50
入学者数	男	7	5	11	6	13
	女	7	6	9	5	11
	計(F)	14	11	20	11	24
充足率(F)/(A)		0.35	0.28	0.50	0.28	0.60

卒業生の動向調

(高等学校用)

1 進路状況

学 科 別		全日制普通科			定時制普通科		
年 度		4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度
卒業生徒数		142	128	130	4	12	12
内 学 者	(進学志願者)	52	43	39	0	4	2
	進 大学・短大	15	11	6	0	1	0
	専修・各種学校等	35	32	33	0	3	2
	小 計	50	43	39	0	4	4
訳	就職者	84	82	84	4	5	7
	自営者	0	0	0	0	0	0
	進学準備者	2	0	2	0	0	0
	その他	6	3	5	0	3	3
合 計		142	128	130	4	12	12

2 求人状況(全日制のみ)

区 分	4年度	5年度	6年度
就職希望者数	85	82	85
求 人 数	317	343	271
求人倍率	3.73	4.18	3.19

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年9月30日現在)(単位:人)

	市町名	湖西市	浜松市	磐田市	その他の県内				その他	合計
全日制	生徒数	155	226	61	6				4	452
	構成比%	34.3	50.0	13.5	1.3				0.9	100%
定時制	生徒数	33	12	3	1				1	50
	構成比%	66.0	24.0	6.0	2.0				2.0	100%

(2) 通学方法 (令和7年9月30日現在)(単位:人)

	区分	徒歩	自転車	交通機関	二輪車	四輪車	その他		合計
全日制	生徒数	30	76	339			7		452
	構成比%	6.7	16.8	75.0			1.5		100%
定時制	生徒数	6	10	33	1				50
	構成比%	12.0	20.0	66.0	2.0				100%

- (注) 1 本表は、学校において調製する。
 2 全日制と定時制に区分して調製する。ただし、夜間中学は本校と分校に区分して調製する。
 3 自転車併用者は、自転車とする。

(定時制高校)

生徒の年齢 (令和7年9月30日現在)(単位:人)

区分	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳超	計
1年	6	13	3	1								23
2年		3	5	3								11
3年			6	6								12
4年				3		1						4
(専修年)												
計	6	16	14	13		1						50

(注) 調整日現在の在籍生徒について、4月1日現在の年齢で区分する。

(4) 生徒の就業状況 (令和7年9月30日現在) (単位:人)

区分	建設		製造	卸小売	サービス業	各種学校	その他	無職	計
1年	0		0	2	5	0	0	16	23
2年	0		1	1	6	0	0	3	11
3年	0		1	1	5	0	0	5	12
4年	0		1	1	0	0	0	2	4
(専修年)	0		0	0	0	0	0	0	0
計	0		3	5	16	0	0	26	50

2 部(クラブ)の加入状況

全日制

(令和7年9月30日現在) (単位:人)

区分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		9	7		16
男子	1年	68	21	14	103
	2年	50	25	10	85
	3年	63	34	9	106
	計(A)	181	80	33	294
	構成比	61.6	27.2	11.2	100%
女子	1年	23	30	7	60
	2年	21	38	1	60
	3年	9	28	1	38
	計(B)	53	96	9	158
	構成比	33.5	60.8	5.7	100%
(A+B)		234	176	42	452
合計	構成比	51.8	38.9	9.3	100%

定時制

(令和7年9月30日現在)(単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		2	0		2
男子	1年	1	0	11	12
	2年	0	0	6	6
	3年	0	0	9	9
	4年	0	0	2	2
	計(A)	1	0	28	29
	構成比	3.4	0	96.6	100%
女子	1年	2	0	9	11
	2年	0	0	5	5
	3年	0	0	3	3
	4年	0	0	2	2
	計(B)	2	0	19	21
	構成比	9.5	0	90.5	100%
合計	(A+B)	3	0	47	50
	構成比	6.0	0	94.0	100%

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和6年度	令和7年度 令和7年9月30日現在
	件 数	件 数
高等学校入学検定料	218	0

預 金 調

(令和7年9月30日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高円	摘要
株静岡銀行 新居支店	無利息型 普通預金	0039557	静岡県立新居高等学校 資金前渡者 校長 川村 勇夫	0	給与、所得税、 一般廃棄物処分
株静岡銀行 新居支店	無利息型 普通預金	0266925	(自振口)静岡県立新居高等学校 資金前渡者 校長 川村 勇夫	0	電気、水道、 社会保険料、 電話等口座引落 し
株静岡銀行 新居支店	無利息型 普通預金	0519549	静岡県立新居高等学校 代理受領者 川村 勇夫	0	奨学給付金代理 受領
残 高 合 計				0	

郵 券 等 受 払 調

(令和7年9月30日現在)

(単位：枚、円)

区 分	種 類	令 和 6 年 度						令 和 7 年 度						摘 要		
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出			差引現在高	
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額		枚数	金 額
郵券	1円券	36	36	0	0	5	5	31	31	0	0	0	0	31	31	県教委、保 護者等文 書郵送
郵券	10円券	25	250	0	0	16	160	9	90	0	0	5	50	4	40	
郵券	22円券	0	0	81	1,782	14	308	67	1,474	0	0	0	0	67	1,474	
郵券	26円券	0	0	30	780	2	52	28	728	0	0	0	0	28	728	
郵券	30円券	0	0	6	180	0	0	6	180	0	0	0	0	6	180	
郵券	63円券	5	315	0	0	0	0	5	315	0	0	0	0	5	315	
郵券	84円券	37	3,108	0	0	9	756	28	2,352	0	0	0	0	28	2,352	
郵券	110円券	0	0	20	2,200	0	0	20	2,200	0	0	4	440	16	1,760	
郵券	120円券	29	3,480	0	0	3	360	26	3,120	0	0	1	120	25	3,000	
郵券	140円券	48	6,720	0	0	8	1,120	40	5,600	0	0	3	420	37	5,180	
郵券	63円葉書	30	1,890	0	0	30	1,890	0	0	0	0	0	0	0	0	
郵券	85円葉書	0	0	30	2,550	16	1,360	14	1,190	0	0	0	0	14	1,190	
郵券	124円葉書	4	496	0	0	0	0	4	496	0	0	0	0	4	496	
郵券	126円葉書	27	3,402	0	0	0	0	27	3,402	0	0	0	0	27	3,402	
郵券	レターパ ックライ ト	5	1,850	0	0	2	740	3	1,110	0	0	0	0	3	1,110	
計			21,547		7,492		6,751		22,288		0		1,030		21,258	

(注) 1 本表は、本庁所管課・出先機関等において、郵券、収入印紙、納税証紙、有料道路回数券等、タクシーチケット、その他これらに類するものを保管している場合に記載する。また、出先機関においては、本所、支所、分庁舎等ごとに調製する。

2 廃棄または用度課に返納した場合は、払出欄を3段書きとし、上段に使用分、中段に廃棄分、下段に返納分を記載する。

3 「摘要」欄には、郵券等の用途を記載する。

様式第10号-2

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					5年度	6年度	左のうち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		434,500	
	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		3,705,020	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		128,480	
	一般	教育費	学校教育費	高校教育費		1,235,300	
計					3,806,770	5,503,300	0
(14) 工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		4,070,000	
計					0	4,070,000	0
(16) 公有財産購入費							
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		0	
	一般	教育費	学校教育費	高校教育費		2,901,986	
計					21,939,302	2,901,986	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		45,796,376	
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費		0	
計					44,995,585	45,796,376	0
(21) 補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

様式第10号-3

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年9月30日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
					うち、6年度からの繰越額分	
(12) 委託料	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	1,480,160	0
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	63,525	0
	一般	教育費	学校教育費	高校教育費	0	0
計					1,543,685	0
(14) 工事請負費						
計					0	0
(16) 公有財産購入費						
計					0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	123,090	0
	一般	教育費	学校教育費	高校教育費	966,900	966,900
計					1,089,990	966,900
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	12,156,900	0
計					12,156,900	0
(21) 補償、補填及び賠償金						
計					0	0

補助金支出調

(令和6年度)

整理番号	対象事業名	交付先	補助の根拠	事業の実績	総事業費	補助金額	補助率	交付決定		交付		事業完了		摘要
								年月日	金額	年月日	金額	年月日	確認年月日	
1	高等学校 定時制課程及び通信制課程 修学補助金	新居高等学校 定時制課程に在学する有職 生徒及び就労困難者2件	高等学校 定時制の課程及び通信制の 課程修学補助金交付要綱	定時制課程及び通信制課程 に在学する生徒を対象として 行う補助事業	円 9,876	円 9,876	100	7.2.18	円 9,876	7.3.18	円 9,876	7.1.27	7.1.27	
計		2件			9,876	9,876			9,876		9,876			

令和7年度 該当なし

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	全国高等学校長協会総会・研究協議会開催案内	全国高等学校長協会総会・研究協議会	4,000	6.5.14
2	全国定時制通信制高等学校長協会総会・研究協議会参加費	全国定時制通信制高等学校長協会	全国定時制通信制高等学校長協会総会・研究協議会開催案内	全国定時制通信制高等学校長協会総会・研究協議会	1,000	6.6.14
3	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会開催要項	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会	2,000	6.7.5
4	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会開催要項	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	2,000	6.7.31
5	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第1期分 387人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	11,474,100	振替日 6.7.31
6	高等学校就学支援金	定時制高等学校授業料(第1期分 43人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	337,500	振替日 6.7.31
7	高等学校就学支援金	定時制高等学校授業料(第1期分 1人分)	静岡県立高等学校等学び直し支援金事務処理要領	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	5,400	振替日 6.7.31
8	高等学校就学支援金	定時制高等学校授業料(第1期分 1人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	8,100	振替日 6.8.30
9	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第2期分 368人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	18,176,400	振替日 6.10.31
10	高等学校就学支援金	定時制高等学校授業料(第2期分 36人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	486,000	振替日 6.10.31
11	高等学校就学支援金	定時制高等学校授業料(第2期分 1人分)	静岡県立高等学校等学び直し支援金事務処理要領	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	13,500	振替日 6.10.31
12	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第2期分 4人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	198,000	振替日 6.11.29
13	高等学校就学支援金	定時制高等学校授業料(第2期分 1人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	13,500	振替日 6.11.29
14	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第2期分 1人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	退学者に係る公金振替済の就学支援金について戻入振替	9,900	振替日 6.12.2
15	高等学校就学支援金	定時制高等学校授業料(第2期分 1人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	13,500	振替日 6.12.23
16	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第2期分 1人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	49,500	振替日 6.12.23
17	防火管理者講習受講料	(一財)日本防火・防災協会	消防法第8条第1項	防火管理者講習	8,000	6.12.26
18	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第3期分 370人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	14,592,600	振替日 7.1.31
19	高等学校就学支援金	定時制高等学校授業料(第3期分 38人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	410,400	振替日 7.1.31
20	高等学校就学支援金	定時制高等学校授業料(第3期分 1人分)	静岡県立高等学校等学び直し支援金事務処理要領	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	10,800	振替日 7.1.31
21	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第3期分 1人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	退学者に係る公金振替済の就学支援金について戻入振替	9,900	振替日 7.2.28
計		21件	/	/	45,786,500	/

負担金支出調

(令和7年度)
(令和7年9月30日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	防火管理者講習受講料	(一財)日本防火・防災協会	消防法第8条第1項	防火管理者講習	8,000	7.4.30
2	全国高等学校長協会総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	全国高等学校長協会総会・研究協議会開催案内	全国高等学校長協会総会・研究協議会	4,000	7.5.14
3	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会受講料	(公財)日本産業廃棄物処理振興センター	廃棄物処理法第12条の2第8項	特別管理産業廃棄物管理責任者講習	13,200	7.5.29
4	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会開催要項	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	4,000	7.7.11
5	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会開催案内	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会	2,000	7.7.11
6	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第1期分 395人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	11,731,500	振替日 7.7.31
7	高等学校就学支援金	定時制高等学校授業料(第1期分 50人分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	394,200	振替日 7.7.31
計		7件	/	/	12,156,900	/

建 築 工

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変 更 増 減 額
				円	円	円
1	教育管理費	静岡県立新居高等学校 グラウンド夜間照明改修工事	湖西市新居町 内山地内	4,345,000	4,070,000	0
		合 計	1 件	4,345,000	4,070,000	0

令和7年度 該当なし

事 調

(令和6年度)

額 計	契約 締結 方法	受 注 者	着 手 完成(予定) 年 月 日	支 出 済 額	工 事 概 要	公有 財産 台帳	摘 要
円 4,070,000	指名	後藤電気設備 (株)	着手 6.12.13 完成 7.2.26	円 4,070,000	グラウンド夜間照明改修	-	令達日 6.11.28 支払日 7.3.21
4,070,000				4,070,000			

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区分	令和6年3月31日現在		増		減		令和7年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 1,459,575		千円 785		千円 13,481		千円 1,446,879	
土地	m ² 37,120.81	1,310,383					m ² 37,120.81	1,310,383	
立木竹	本 130	4,801			5	197	本 125	4,604	
建物	m ² 建 6,672.22 延 13,416.34	77,287				6,580	m ² 6,672.22 13,416.34	70,707	
工作物	個 103	67,104	1	785	1	6,704	個 103	61,185	
普通財産		25,229						25,229	
土地	m ² 582.90	25,229					m ² 582.90	25,229	
公有財産に準ずるもの		140						140	
電話加入権	件 5	140					件 5	140	

公 有 財 産 調

(令和7年度)
(令和7年9月30日現在)

区分	令和7年3月31日現在		増		減		令和7年9月30日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 1,446,879		千円		千円		千円 1,446,879	
土地	m ² 37,120.81	1,310,383					m ² 37,120.81	1,310,383	
立木竹	本 125	4,604					本 125	4,604	
建物	建 6,672.22 延 13,416.34	70,707					m ² 6,672.22 13,416.34	70,707	
工作物	個 103	61,185					個 103	61,185	
普通財産		25,229						25,229	
土地	m ² 582.90	25,229					m ² 582.90	25,229	
公有財産に準ずるもの		140						140	
電話加入権	件 5	140					件 5	140	

借 地 借 家 等 調

(令和7年9月30日現在)

整理 番号	区分	種 別	所 在 地	地 目		数量又 は面積	借 料		契約期間	所有者又は 契約者氏名	用 途
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	事務所建	湖西市 新居町内山 2036	R C 3階建	建 延	m ² 321.30 876.33	円 -	円 無償	自7.4.1 至8.3.31	(一社)静岡県 立新居高等学 校後援会長	生活館
2	建物	事務所建	湖西市 新居町新居 612-3	軽量鉄骨造 平屋建	建 延	223.25 263.49	-	無償	自7.4.1 至8.3.31	(一社)静岡県 立新居高等学 校後援会長	弓道場
3	建物	雑屋建	湖西市 新居町内山 2036	軽量鉄骨造 平屋建 2棟	建 延	40.50 40.50	-	無償	自7.4.1 至8.3.31	(一社)静岡県 立新居高等学 校後援会長	野球場 ベンチ
	計				建 延	585.05 1180.32					
1	工作物	雑工作物	湖西市 新居町新居 612-3	弓道防矢 ネット		個 1	-	無償	自7.4.1 至8.3.31	(一社)静岡県 立新居高等学 校後援会長	弓道防矢 ネット
2	工作物	冷暖房 装置	湖西市 新居町内山 2036	普通教室 空調設備		個 1	-	6,874,254	自3.7.1 至16.6.30	三井住友フア イナンス& リース(株)	普通教室 空調設備
3	工作物	冷暖房 装置	湖西市 新居町内山 2036	特別教室 空調設備		個 1	-	4,408,738	自6.7.1 至19.6.30	NTT・TCリー ス(株)静岡支店	特別教室 空調設備
	計							11,282,992			

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年9月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	湖西市新居町内山2036	学校敷地	学校敷地	m ² 4.70	-	免除	自6.4.1 至9.3.31	静岡県立静岡中央高等学校長	通信制の課程西部キャンパス倉庫敷地
2	土地	学校敷地	湖西市新居町内山2036	学校敷地	学校敷地	m ² 0.96	-	免除	自7.4.1 至12.3.31	湖西市長	公衆用道路敷地
3	土地	学校敷地	湖西市新居町内山2036	学校敷地	学校敷地	m ² 0.90	-	免除	自7.4.1 至12.3.31	(一社)静岡県立新居高等学校後援会長	記念碑敷地
4	土地	学校敷地	湖西市新居町内山2036	学校敷地	学校敷地	m ² 0.07	-	免除	自7.4.1 至12.3.31	湖西市長	カーブミラー敷地
5	土地	学校敷地	湖西市新居町内山2036	学校敷地	学校敷地	m ² 0.03	-	免除	自4.4.1 至9.3.31	栄町町内会長	カーブミラー敷地
6	土地	学校敷地	湖西市新居町内山2036	学校敷地	学校敷地	m ² 0.01	-	免除	自4.4.1 至9.3.31	港町町内会長	カーブミラー敷地
7	土地	学校敷地	湖西市新居町内山2036	学校敷地	学校敷地	4本	円 1,500	円 6,000	自5.4.1 至8.3.31	中部電力パワーグリッド株式会社 浜松営業所長	電柱敷地
8	土地	学校敷地	湖西市新居町新居612-3	学校敷地	学校敷地	m ² 0.79	-	無償	自5.4.1 至8.3.31	中部電力パワーグリッド株式会社 浜松営業所長	電線敷地
9	建物	事務所建	湖西市新居町内山2036	RC 3・4階建	RC 3・4階建	m ² 101.74	-	免除	自6.4.1 至9.3.31	静岡県立静岡中央高等学校長	通信制の課程西部キャンパス職員室、昇降口
10	建物	事務所建	湖西市新居町内山2036	RC 3階建	RC 3階建	m ² 15.57	-	免除	自6.5.1 至9.3.31	静岡県立静岡中央高等学校長	通信制の課程西部キャンパス倉庫
11	建物	事務所建	湖西市新居町内山2036	RC 2階建	RC 2階建	m ² 32.40	-	免除	自6.4.1 至9.3.31	(一社)静岡県立新居高等学校後援会長	購買室設置
12	土地	学校敷地	湖西市新居町新居612-3	学校敷地	学校敷地	m ² 1.44	-	免除	自7.4.1 至12.3.31	湖西市長	防災無線設備敷地
13	建物	事務所建	湖西市新居町内山2036	RC 2階建	RC 2階建	m ² 3.30	-	免除	自6.4.1 至9.3.31	静岡県立新居高等学校PTA会長	職員執務場所
14	建物	事務所建	湖西市新居町内山2036	RC 4階建	RC 4階建	m ² 3.30	-	免除	自6.4.1 至9.3.31	(一社)静岡県立新居高等学校後援会長	職員執務場所
15	建物	事務所建	湖西市新居町内山2036	RC 2階建	RC 2階建	m ² 6.00	-	円 722,480	自7.4.1 至10.3.31	(株)ダイドービレッジ静岡	自動販売機設置
16	建物	事務所建	湖西市新居町内山2036	RC 2階建	RC 2階建	m ² 1.00	-	円 1,120	自7.4.1 至8.3.31	(一社)静岡県立新居高等学校後援会長	パン自動販売機設置
17	土地	学校敷地	湖西市新居町内山2036	学校敷地	学校敷地	m ² 0.49	-	無償	自5.4.1 至8.3.31	湖西警察署長	信号機設置
合計								729,600			

普通財産・借受財産等貸付調

(令和7年9月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	宅地	湖西市新居町内山366-113	宅地	宅地	電柱2本 支線1条	円 1,500	円 4,500	自5.4.1 至8.3.31	中部電力パワーグリッド株式会社 浜松営業所長	電柱・支線敷地
合計								4,500			

主 要 備 品 調

(令和7年9月30日現在)

整理番号	区 分		品 名 ・ 規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購入金額
	大・中	小				
1	6-4	その他の電気電子機器	その他の電気電子機器 ロボット制御実習装置一式	毎日(年間200日)使用 工業コース等授業用	R 6 . 2	円 19,998,000
2	6-99	その他の諸機器	その他の諸機器 シャーリング(ATS-512)	年間60日使用 工業実習用	R 4 . 3	8,690,000
3	2-1	パーソナルコンピュータ(一式)	県立学校ICT環境整備機器 一式	毎日(年間200日)使用 工業コース等授業用	R 2 . 1	5,890,698
4	6-99	その他の諸機器	その他の諸機器 製図台TW-200A、製図	週8時間(年間200日) 使用、工業実習用	R 2 . 12	5,494,610
5	3-3	プロジェクター	プロジェクター (新居高等学校)	毎日(年間200日)使用 授業用、ICT推進	R 3 . 3	3,973,750
6	6-2	金属加工工作機器	金属加工工作機器 旋盤 LR-55A	週8時間(年間200日) 工業実習用	S57.2	2,069,560
7	2-1	パーソナルコンピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ(一式) iPad他(新居高等学校)	毎日(年間200日)使用 授業用、ICT推進	R 3 . 3	1,904,109
8	6-2	金属加工工作機器	金属加工工作機器 旋盤 LR-55A 心間距離550m	週8時間(年間200日) 使用、工業実習用	S54.2	1,669,560
9	6-2	金属加工工作機器	金属加工工作機器 旋盤 LR-55A 心間距離550m	週8時間(年間200日) 使用、工業実習用	S53.2	1,669,560
10	8-2	ボ ー ト	ボート 舵手付クォドルプル重量艇	年間60日使用 ボート部用	H15.3	1,554,000
11	6-4	空気圧縮機送風機	空気圧縮機送風機 ドラフトチャンバー CBZ-Sc12-H1	週14時間(年間200日) 使用、化学授業用	H30.3	1,512,000
12	2-2	放 送 装 置	放送装置 デジタルミキサー等	年20日使用 式典・講演会等学校行事用	H27.8	1,209,600
13	6-2	金属加工工作機器	金属加工工作機器 立フライス盤	週8時間(年間200日) 使用、工業実習用	S44.11	1,110,000
14	2-1	パーソナルコンピュータ周辺機器	パーソナルコンピュータ周辺機器 取付金具・LANケーブルを含む	毎日(年間200日)使用 授業、校務用	R 7 . 7	966,900
15	6-2	金属加工工作機器	金属加工工作機器 フライス盤	週8時間(年間200日) 使用、工業実習用	S39.1	950,000
16	6-99	その他の諸機器	その他の諸機器 万能折曲機 LD-414 t2.0×1220mm	年間60日使用 工業実習用	R 4 . 3	929,500
17	2-2	放 送 装 置	放送装置 音声調整卓等	毎日(年間200日)使用 校内放送用	H25.2	901,950
18	5-6	放射線化学機器	放射線化学機器 戸田式霧箱	毎日(年間200日)使用 理科・工業授業用	H27.11	855,360
19	6-2	金属加工工作機器	金属加工工作機器 旋盤	週8時間(年間200日) 使用、工業実習用	S45.3	729,560
20	6-2	金属加工工作機器	金属加工工作機器 旋盤	週8時間(年間200日) 使用、工業実習用	S45.8	729,560

職 員 調

(令和7年9月30日現在)

全日制(本務職員)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	校長	川村 勇夫			年 月	
2	副校長	和久田 好秀			年 月	代決出納員 通算 年 月
3	教頭	大馬 直人			年 月	
4	事務長	竹村 美幸			年 月	出納員 . . 通算 年 月
5	教諭	杉本 彰	数学		年 月	
6	教諭	吉田 和夫	商業		年 月	
7	教諭	田淵 光宏	理科		年 月	
8	教諭	一瀬 道芳	工業		年 月	
9	教諭	内村 正勝	工業		年 月	
10	教諭	鈴木 広乃	福祉		年 月	
11	教諭	福岡 大吾	家庭		年 月	
12	教諭	上角 景子	国語		年 月	
13	教諭	新村 絵梨子	英語		年 月	
14	教諭	伊藤 尚史	保健体育		年 月	
15	教諭	小楠 晃也	保健体育		年 月	
16	教諭	豊田 和晃	保健体育		年 月	
17	教諭	太田 貴子	英語		年 月	
18	教諭	大脇 真弓	理科		年 月	
19	教諭	安藤 志緒美	国語		年 月	
20	教諭	鈴木 絢人	数学		年 月	
21	教諭	鈴木 康介	保健体育		年 月	
22	教諭	横山 友美	家庭		年 月	
23	教諭	越智 千紗都	数学		年 月	
24	教諭	小林 翼	地歴・公民		年 月	
25	教諭	横田 直樹	数学		年 月	
26	教諭	兼子 拓也	工業		年 月	
27	教諭	小杉 佳子	地歴・公民		年 月	
28	教諭	鈴木 弥	理科		年 月	
29	教諭	鈴木 優佳	美術		年 月	
30	養護教諭	秀平 陽子			年 月	
31	実習助手	藤田 暁世	理科		年 月	
32	主査	杉浦 千鶴	庶務		年 月	会計事務職員 . . 通算 年 月
33	主査	石田 祐美加	管財		年 月	会計事務職員 . . 通算 年 月
34	技能長	山口 善治			年 月	
			平均年数		4年7月	

全日制（臨時職員等）

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭	菅沼 妙子	音楽		年 月	
2	教諭	本田 容子	国語		年 月	
3	教諭	宮崎 貞夫	ジョブサポートティーチャー		年 月	

全日制（会計年度任用職員）

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	非常勤講師	早水 有紀	地歴・公民		年 月	
2	非常勤講師	彦坂 幸輝	商業		年 月	
3	非常勤講師	市川 由美子	英語		年 月	
4	非常勤講師	小栗 正人	英語		年 月	
5	非常勤講師	西野 之規	保健体育		年 月	
6	非常勤講師	関 裕司	保健体育		年 月	
7	非常勤講師	鈴木 沙彩	書道		年 月	
8	非常勤講師	田頭 郁子	福祉		年 月	
9	非常勤講師	橋爪 明美	福祉		年 月	
10	非常勤講師	大野 正博	情報		年 月	
11	非常勤講師	藤田 則吉	通級		年 月	
12	非常勤労務職員	村上 敏子	用務		年 月	
13	非常勤嘱託員	吉田 香	庶務		年 月	
14	部活動指導員	福井 建太郎			年 月	
15	部活動指導員	菊地 昌弘			年 月	
16	A L T	Tasic Julie Anne	英語		年 月	
17	スクールカウンセラー	矢野 智			年 月	

定時制(本務職員)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教頭	外波山 行秀			年月	
2	教諭	村井 督昌	英語		年月	
3	教諭	山崎 祐美	理科		年月	
4	教諭	石黒 太祐	地歴・公民		年月	
5	教諭	本目 雅和	国語		年月	
6	教諭	木原 宏佳	数学		年月	
7	教諭	磯野 大輔	保健体育		年月	
8	主事	尾崎 雄平	庶務・会計		年月	会計事務職員 . . . 通算 年月
			平均年数		3年1月	

定時制(臨時職員等)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	養護教諭	杉山 和香奈			年月	

定時制(会計年度職員)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	非常勤講師	鈴木 絢子	音楽		年月	
2	非常勤講師	渥美 佐代子	書道		年月	
3	非常勤講師	大久保 まゆみ	家庭		年月	
4	非常勤講師	青嵐 孝芳	情報		年月	
5	非常勤講師	藤田 則吉	通級		年月	

様式第2号 - 2

職 員 の 年 齢 調

(全日制)

(令和7年9月30日 現在)

年 齢	人 員	摘 要
20 歳未満	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	5	
30 歳以上 40 歳未満	8	
40 歳以上 50 歳未満	10	
50 歳以上 56 歳未満	2	
56 歳以上 61 歳未満	5	
61 歳以上	4	暫定再任用職員 4人
計	34	平均年齢 44.1歳

様式第2号 - 2

職 員 の 年 齢 調

(定時制)

(令和7年9月30日 現在)

年 齢	人 員	摘 要
20 歳未満	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	0	
30 歳以上 40 歳未満	3	
40 歳以上 50 歳未満	3	
50 歳以上 56 歳未満	1	
56 歳以上 61 歳未満	1	
61 歳以上	0	
計	8	平均年齢 43.2歳

健康管理

1 令和 6 年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 47 人
	職員数 47
受 診 率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 令和 7 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ平常に行っておりが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	7(3)人
D 2		要経過観察	7(6)人
D 3		医 療 不 要	28(9)人
区 分 者 計			42(18)人
未区分者数			0 人
合 計			42(18)人

(1) 管理区分 A ~ C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア	産休・育休	人
イ	新規採用	人
ウ	自己都合による未受診	人
エ	その他	人
	()	人

(注) 1 健康管理区分結果は、調書調製日現在在籍している職員（様式第 2 号 - 2 の記載対象者と同じ。）について記載する。

2 本年度の健康管理区分結果が出ていない職員については、前年度の結果を記載し、()書きで再掲する。

3 前年度に市町等へ派遣されていた職員等は、派遣先等の健康診断結果等に基づき、該当箇所に記載する。

4 本様式は別冊とする。

5 警察署は、「D 3」と「区分者計」の間に「区分なし」を追加して記載する。